



2016 年度 鉄道事業設備投資計画

「革新と挑戦」によって、さらなる成長へ向けた シフトチェンジを実現すべく、 安全対策、サービス向上、環境対策などに総額 207 億円

西武鉄道株式会社(本社:埼玉県所沢市、社長:若林 久)では、より安全で快適なサービスを提供し、人にやさしい鉄道を目指しております。2016 年度は総額 207 億円を投じ、安全対策、サービス向上、環境対策などの鉄道事業設備投資を行ってまいります。

《2016 年度の鉄道事業における、主な設備投資の概要》

1. 安全対策

安全の確保を最重要課題としてとらえており、ホーム上および駅施設でのお客さまの安全を確保するため、ホームドア等の整備、防犯カメラ設置を進めます。また輸送の安全を確保するため駅舎や橋りょうなどの耐震補強、法面の改良、変電所の機器更新、連続立体交差事業の推進などの安全対策を中心に設備投資を行います。

【ホーム安全対策】

- 池袋駅のホームドア整備工事を推進

【地震対策】

- 駅舎・跨線橋・橋りょうの耐震補強を推進

【踏切対策】

- 新宿線中井～野方駅間、東村山駅付近の連続立体交差化を推進

2. サービス向上

沿線観光地の魅力をより高めるべく、沿線観光地の玄関口である本川越駅・西武秩父駅での観光拠点整備を進めます。また、中井駅では、地下自由通路の設置とあわせてエレベーターの新設などのバリアフリー化工事を引き続き進めます。

車両については、2013 年度から導入しているグレードアップした 30000 系を 8 両 (8 両 1 編成) 新造します。また、30000 系車両の後継として「人にやさしい、みんなと共に進む電車」をコンセプトに、「やさしさ」「沿線に寄り添う」「未来志向・先進性」をキーワードにした、これからの 100 年に向けて走り出す車両 40000 系を新造します。

【車両の快適性向上】

- 「進化したスマイルトレイン」40000 系 20 両 (10 両 2 編成) の導入

【駅の快適性向上】

- 訪日外国人客の取込みを企図した本川越駅・西武秩父駅での観光拠点整備
- 中井駅バリアフリー化工事の推進
- トイレリニューアル・待合室の設置

3. 環境対策

省エネや CO₂ 排出量削減のために、駅や踏切の照明器具に LED 照明の導入などを引き続き進めます。

詳細は【別紙】のとおりです。

1. 安全対策

鉄道事業では、安全の確保を最重要課題としてとらえ、輸送の安全確保のため安全対策投資に重点をおきます。

・駅ホームの安全対策

ホームドアは、ホーム上からの転落や車両との接触を防止するための設備です。2015年度は池袋駅2番ホームへの設置が完了し、2017年度末までにその他のホーム（3～6番ホーム）の整備が完了する予定です。

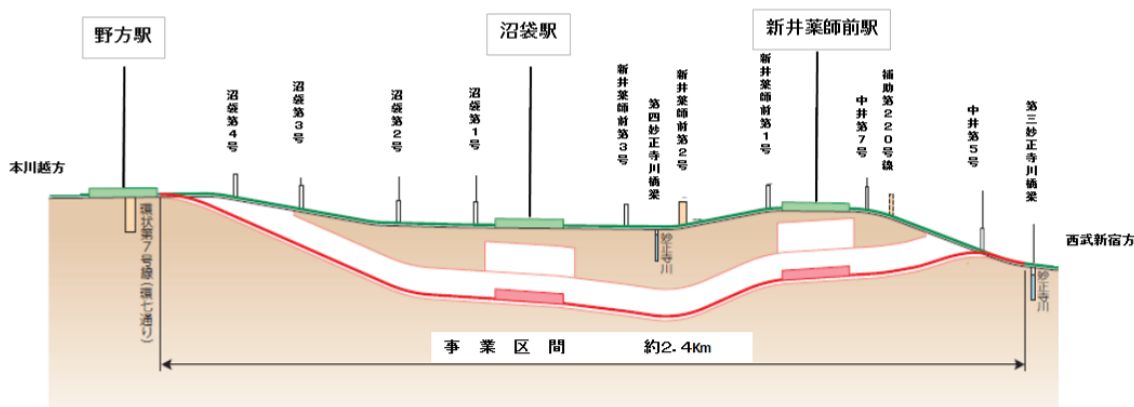


<池袋駅2番ホーム ホームドア>

・連続立体交差事業の推進

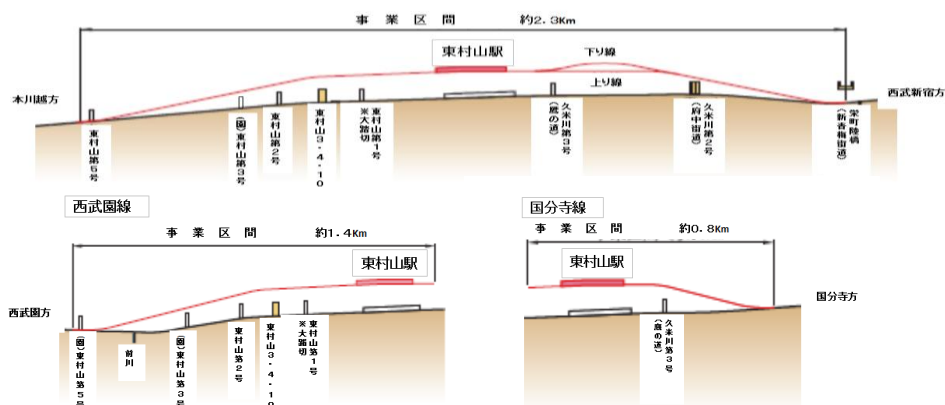
(1) 中井～野方駅間連続立体交差事業（地下化）

2011年8月に都市計画決定され、2013年4月に事業認可を取得、2014年1月に工事に着手しました。今年度は、取付部の土木工事や沼袋駅部のホームの仮設工事を行ってまいります。この事業が完成すると7ヵ所の踏切が除却され、踏切での慢性的な交通渋滞の解消、道路と鉄道それぞれの安全性が向上し、鉄道により分断されていた地域の一体化がはかれるとともに、連続立体交差事業を契機とした地元自治体による駅前広場などの整備が促進され、安全で快適なまちづくりにも寄与します。



(2) 東村山駅付近連続立体交差事業（高架化）

2012年10月に都市計画決定され、2013年12月に事業認可を取得、2015年1月に工事に着手しました。今年度は、東村山駅部で高架橋の基礎工事、ホームの仮設工事を行ってまいります。この事業が完成すると5ヵ所の踏切が除却され、より安全で快適なまちづくりにも寄与します。



(3) 石神井公園駅付近高架複々線化工事

1971年の都市計画決定以来、東京都、練馬区などと協力して工事を進め、2003年3月に桜台（新桜台）～練馬高野台駅間が完成しました。また、石神井公園駅付近については、2015年1月に上り線を高架に切り換える工事を実施し、新たに3ヵ所の踏切が除却されるとともに、2007年度より進めてきた事業区間全線の高架化が完了しました。今年度の事業完了に向けて鉄道施設工事や地元自治体による側道整備などを進め、より安全で快適なまちづくりにも寄与します。



<高架複々線区間>



<石神井公園駅>

・橋りょうおよび駅舎などの耐震診断・設計・補強

国土交通省の指針に沿い、2017年度までに対象となる橋りょう、駅舎、跨線橋などの耐震補強を行います。また、自主的な対応も随時進めてまいります。

・保線保守用車（マルチプルタイタンパーなど）の更新

マルチプルタイタンパー（通称：マルタイ）は、線路上を列車が走ることで生じる線路のゆがみを整正する大型保線用機械です。ミリ単位で線路を整正することで、列車の快適な乗り心地を維持しています。



2. サービス向上

お客さまに快適にご利用いただける、人にやさしい鉄道を目指して、サービス向上の設備投資を進めます。

・駅舎の改良・バリアフリー化

中井駅では2016年度も引き続き、新宿区が行う南北自由通路の整備に合わせて、エレベーターを4基、エスカレーターを4基設置しバリアフリー化をはかるほか、旅客トイレをリニューアルします。南北自由通路は線路下の地下に整備し、改札口も地下に移設します。この整備により、線路で分断されている南北の往来がスムーズになるとともに、北側からも駅をご利用いただけるようになります。今年度末の完成を目指して工事を進めます。

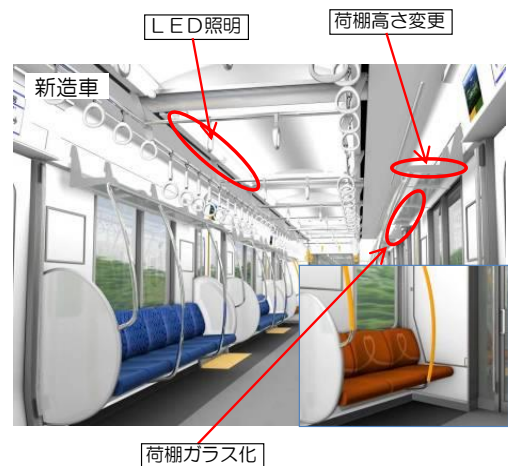


<イメージ>

・車両の新造・更新

(1) 30000系通勤車両の新造(今年度で終了)

「Smile Train」の愛称で親しまれている30000系通勤車両は2008年度から導入を開始し、2015年度までに29編成208両を製造しました。2013年度から導入しました荷棚高さの変更やLED照明を採用した30000系を引き続き2016年度も1編成8両を新造する予定です。



(2) 40000系車両の新造

30000系車両の後継として「人にやさしい、みんなと共に進む電車」をコンセプトに、「やさしさ」「沿線に寄り添う」「未来志向・先進性」をキーワードにした、これからの100年に向けて走り出す「進化したスマイルトレイン」40000系車両を2016年度から2020年度までに合計80両を新造する予定です。今年度は20両(10両2編成)を新造する予定です。

この40000系車両には当社初の「ロング・クロスシート転換車両」(一部編成)を導入するほか、「車いすスペース」を拡大し、乗る方それぞれに寄り添う“気遣いや使いやすさ”を備えた「パートナーゾーン」を設けて、新たな「車両バリアフリー」の形を提案します。さらに、快適性向上のため車内に「プラズマクラスター」(※)

を搭載し、また最新技術のモーターを採用するなど省エネルギー化・低騒音化もはかります。

(※) プラズマクラスターはシャープ株式会社の登録商標です。



<外観イメージ図>



<パートナーゾーン イメージ図>

3. 環境対策

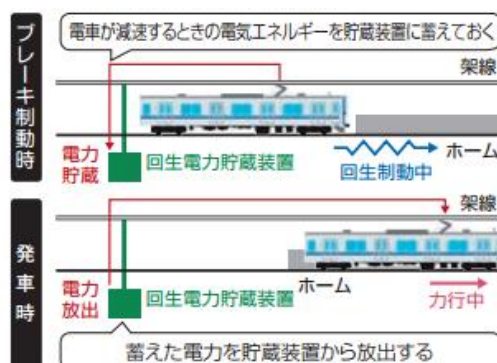
引き続き、省エネルギー化などの環境対策に資する設備投資を推進します。

・LED照明の導入

LED照明は消費電力が低くCO₂排出量削減の効果が期待できるため、駅舎やコンコース、ホームや踏切等でLED照明の導入を進めております。2016年度は、練馬高野台駅、西所沢駅、小手指駅、玉川上水駅などの計11駅と31ヵ所の踏切で照明器具の取替に合わせてLED照明を採用します。

・回生電力貯蔵装置の導入

変電所設備の更新において、電力量とCO₂排出量を削減するために回生電力貯蔵装置を導入します。回生電力貯蔵装置とは、電車がブレーキを使用した際に発生する回生電力を、吸収・貯蔵し、力行時に放電できる装置であり、環境負荷の低減に貢献します。田無変電所で2016年度末に整備完了予定です。



<イメージ図>

以上